# AutoCAD LT 2018 対応

# 入門者から実務者まですぐに役立つ! AutoCADLT 標準教科書

## Webの 専用ページから CADデータを 取得できます

中森 隆道 著

【第1部・機能編/第2部・製図編】

# 25年以上にわたるAutoCADの企業講習と 職業訓練校での教育実績に基づく AutoCAD LT 解説の決定版!



本文オールカラー

・サンプルプログラムはWebからダウンロード ・仕事に役立つDWGをWebに満載

Ι

#### 目次

# 第1部 機能編

## 第1章 画面構成

## 第1節(起動と終了)

AutoCAD LT の起動	2
AutoCAD LT の終了	5
 背景色を変更する	6
グリッド表示	7
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	8

### 第2節(インターフェース)

インターフェース	10
アプリケーションメニュー	11
クイックアクセスツールバー	12
ファイルタブ	13
リボンメニュー	14
コマンドウィンドウ	15
ステータスバー	16
マウスカーソル	17
UCS アイコン	17

#### 第3節 (メニュー)

リボンメニュー一覧	18
ホームタブ	19
挿入タブ	20
注釈タブ	21
パラメトリックタブ	22
 表示タブ	23
管理タブ	23
 出力タブ	24
A360 タブ	24
プルダウンメニュー	25
ショートカットメニュー	28
ステータス バーメニュー	30

## 第4節 (新規作成と保存)

テンプレートから新規作成	32
既図面から新規作成	34
開く	36
閉じる	37
 上書き保存	38
名前を付けて保存	39
DXF 書き出し	40

## 第2章 基本操作

第 1	節(画面の説明)	
	 座標系の種類	42
	絶対座標	43
	絶対極座標	43
	相対座標	44
	相対極座標	44
	直接距離入力	45
	極トラッキング	45
	ダイナミック入力	46
	オブジェクトスナップ	48
	図心スナップ	51
	ズーム	52
	画面移動	55
	ナビゲーション バー	56
	ビューポート環境設定	58
	名前の付いたビューポート	59
	ビューポート結合	60
	ビューポート呼び出し	61
	隠線処理	62

## 第3章 各種設定

#### 第1節 (図面の設定)

オプション(ファイル)	64
オプション(表示)	66
オプション(開く / 保存)	68
オプション(作図補助)	70
オプション(選択)	72
オプション(基本設定)	74
オプション(印刷スタイル)	75
図面範囲設定	76
グリッド設定	78
スナップ設定	79
ダイナミック入力	80
極トラッキング	82
オブジェクトトラッキング	83
直交モード	84
 線の太さ	85
透過性	86
選択の循環	88
クイック プロパティ	89
画層プロパティ管理	90
	94
	95
長さの単位設定	96
角度の単位設定	97
文字スタイル管理	98
寸法スタイル管理	100
引出線スタイル管理	103
 色設定	105
ページ設定管理	106
印刷	108
印刷スタイル	112

#### 第2<u>節(システム変数)</u>

主なシステム変数

124

#### 第1節(図形の管理)

クイック選択	134
クイック プロパティ	136
	138
	139
オブジェクトプロパティ管理	140
ツールパレット	142
デザインセンター	144
外部参照	146
グループ	148
グループ管理	149
表示順序	150
貼り付け	152
形式を選択して貼り付け	153
名前変更	154
名前削除	155

#### 第2節(図形情報の取得)

距離	156
	157
角度	158
	159
リージョン	160
体積	161
位置表示	162
	163

## 第3節 (UCS)

UCS(ワールド)	164
UCS(オブジェクト)	165
UCS(原点)	166
UCS(ビュー)	167
UCS(3 点 )	168

## 第5章 作成

## 第1節(平面図形)

線分	170
	171
放射線	172
スプライン	173
ポリライン	174
円	176
円弧	178
	180
楕円弧	181
リージョン	182
ワイプアウト	183
	184
ポリゴン	185
雲マーク	186
ドーナツ	187
ディバイダ	188
計測(メジャー)	189
点	190
ブロック作成	191
属性定義	192
属性管理	194
境界作成	196
ハッチング	198
グラデーション	202
文字記入	206
マルチテキスト	208
表	212
フィールド	218

## 第6章 修正

## 第1節(平面図形)

削除	224
	226
	227
ストレッチ	228
 長さ変更	229
フィレット	230
 面取り	231
 回転	232
	233
	234
配列複写 ( 円形 )	236
 配列複写 (パス)	238
配列複写編集	240
	244
オフセット	245
トリム	246
延長	247
部分削除	248
結合	249
分解	250
変更	251
オブジェクトプロパティ管理	252
プロパティコピー	253
ポリライン編集	254
ブロック編集	256
ブロック属性編集	258
文字編集	260
マルチテキスト編集	262
ハッチング編集	264

## 第7章 寸法

## 第1節(寸法記入)

寸法の種類	268
	269
クイック寸法記入	272
	274
平行寸法記入	275
半径寸法記入	276
直径寸法記入	277
角度寸法記入	278
弧長寸法記入	279
折り曲げ円弧寸法	280
座標寸法記入	281
直列寸法記入	282
	283
幾何公差	284
中心マーク	286
中心線	287

#### 第2節(引き出し線)

マルチ引出線スタイル管理	288
マルチ引出線	290
	292

#### 第3節(寸法編集)

グリップ編集	294
寸法マスク	296
寸法値間隔	297
スライド寸法	298
寸法値位置合わせ (右)	299
寸法値位置合わせ(中心)	300

## 第8章 外部ファイル

#### 第 1 節(DWG ファイル)

302
304
306
307
308
309
310

#### 第2節(イメージファイル)

イメージのアタッチ	312
イメージのクリップ	313
イメージ調整	314
イメージ画質	315

#### 第3節 (PDF)

316
317
318
319

## 第4節 (DXF、DWF)

 DXF で保存	320
DXF を開く	321
DWF アタッチ	322

## 第9章 ダイナミックブロック

#### 第1節(ダイナミックブロックの作成手順)

ダイナミックブロックの作成	326
ブロックをダイナミックブロックに変換	328

#### 第2節(パラメータとアクション)

ブロックエディタ	330
パラメータの種類	332
アクションの種類	334

#### 第3節(ダイナミックブロックの作成)

ダイナミックブロック (配列複写)	336
ダイナミックブロック (XY 配列複写 )	340
ダイナミックブロック(反転)	344
ダイナミックブロック(ストレッチ)	348
ダイナミックブロック(ルックアップ)	354
ダイナミックブロック(可視性)	358

## 第10章 図面レイアウト

設計モデルと注釈モデルの違い 368

#### 第1節(非異尺度対応図をレイアウトする)

非異尺度対応図の作成	368
表題欄(図枠)の挿入	370
レイアウトの配置	371
縮尺の決定	372
複数のレイアウトを配置	374
複数の寸法スタイルと画層の設定	376
尺度に適した寸法スタイルと画層	377
レイアウトに寸法を記入	378
非異尺度対応図作成のポイント	381

#### 第2節(異尺度対応図をレイアウトする)

異尺度対応スタイルの設定	382
異尺度対応寸法の使用	386
既存のオブジェクトを異尺度対応に変更	388
1つのオブジェクトに複数の異尺度対応を付加	390
全てのオブジェクトに複数の異尺度対応を付加	392
異尺度対応オブジェクトの仕組み	394

# 第2部 製図編

## 第1章 製図の手順

#### 第1節 (新規製図)

	作図開始までの手順	398
	基本スタイルの設定 (文字・寸法・画層・単位)	400
	異尺度対応スタイルの設定	406
第2	節(印刷スタイル)	
	2つの印刷スタイル	410
	名前の付いた印刷スタイル	411
	色依存の印刷スタイル	412
		414

## 第2章 建築用テンプレート作成

印刷をモデル空間で行う場合	416
印刷をレイアウト空間で行う場合	417

#### 第1節(モデル空間用テンプレートを作成)

テンプレート (作成手順)	418
テンプレート(画層名)	419
テンプレート (文字スタイル)	421
テンプレート (寸法スタイル)	422
テンプレート (その他の設定)	424
テンプレート(図枠作成)	425
テンプレート(表題欄作成)	426
テンプレート (保存)	427

#### 第2節(レイアウト空間用テンプレートを作成)

作成手順	428
図面範囲	429
寸法 / 線種尺度	430
ブロック作成	431
	432

目次

## 第3章 建築図面作成

## 第1節(モデル空間に作図し、印刷する)

作成手順	434
テンプレート挿入	435
壁芯(通り芯)	436
躯体(柱)	438
躯体(壁)	44C
建具(扉)	442
建具(窓)	444
家具等	446
文字	448
ハッチング	450
寸法	452
モデル空間で印刷	454

## 第2節(レイアウト空間に配置し、印刷する)

レイアウト空間に図枠挿入	456
ビューポート作成と配置	457
<b>尺度設定</b>	459
印刷	460

## 第4章 機械用テンプレート作成

	 印刷をモデル空間で行う場合	462
	印刷をレイアウト空間で行う場合	463
第1	節(モデル空間用テンプレートを作成)	
	テンプレート(作成手順)	464
	テンプレート (画層名)	465
	テンプレート (文字スタイル)	467
	テンプレート (寸法スタイル)	468
	テンプレート (その他の設定)	470
	テンプレート(図枠作図)	471
	テンプレート(表題欄作図)	472
	テンプレート (保存)	473
第2	 節(レイアウト空間用テンプレートを作成)	
	作成手順	474
		475
	図枠を挿入	476

## 第5章 機械図面作成

## 第 **1 節(モデル空間に作図する**)

作成手順	478
テンプレート挿入	479
中心線作図	480
パーツ作図(円)	482
パーツ作図(フィレット)	484
八ッチング	486
回転複写	488
寸法	490

#### 第2節(レイアウト空間に配置し、印刷する)

レイアウト空間に配置	492
ビューポートに配置	493
尺度決定	494
外部参照で取り込み	496
外部参照図を変更	497
印刷	499

## Index(索引)

	索 -1
ア行	索 -1
カ行	索 -1
サ行	索 -2
タ行	索 -2
ナ行	索 -3
八行	索 -3
マ行	索 -4
ラ行	索 -4
ワ行	索 -4

**画面構成** 



## 2 [作成]タブ

下図は AutoCAD LT2018 の起動画面です。このスタート画面には 2 つのタブがあります。 最初に表示されるのは、[作成]タブです。もう一つの[学習]タブに切り替えるには、画面の下部や 左端にある[学習](赤丸)を指示します。



[作成]タブ	
①スタートアップ	[ テンプレート ファイル ][ 既図面 ][ シートセット ] などを 開きます。
② 最近使用したドキュメント	直近に使用した図面が表示されます。図面を押しピンで固定して 常にこのリストに表示しておくこともできます。
③ 接続	A360 にサインして、Autodesk に直接フィードバックを送れます。

## **3** [スタートアップ]

[図面を開始]や[テンプレート]を使用して、すぐに新しい図面を作成できます。 また、Autodesk のサイトに接続して別のテンプレート ファイルをダウンロードして使用したり、 Autodesk が提供するサンプル図面を利用することもできます。



スタートアップ	
①図面を開始	既定のテンプレート ファイルから新しい図面を作成します。
②テンプレート	AutoCAD LT が提供するテンプレートが使用できます。( 図 1)
③ファイルを開く	既図面を開きます。最後に使用したフォルダが表示されます。
④シートセットを開く	シートセット (**.dst) を開きます。
⑤オンライン テンプレートを追加	Autodesk のサイトからテンプレートを取得できます。
⑥サンプル図面を参照…	Autodesk 提供のサンプル図面を検索できます。

#### 起動時の初期画面(赤枠の中が作図領域)



基本操(



[表示]タブ -> [モデルビューポート]パネル -> [ビューポート環境設定]を選択します。
 ②表示される分割候補から希望する分割を選びます。





2 分割: 縦





分割:等分



[ビューポート環境設定]で分割した画面の状態は保存されません。 分割した状態を保存するためには、[名前の付いたビューポート]を使います。



①[表示]タブ ->[モデルビューポート]パネル ->[名前の付いたビューポート]を選択します。

 [新規ビューポート]タブには、画面の分割の 種類が表示されています。

③右の例は、[4分割]を選択した図です。

④ [新しい名前]に名前を付けて保存します。



⑤ [名前の付いたビューポート]タブには、保存した ビューポートの一覧が表示されます。

⑥ビューポート名を選択すると、そのビューポートで 表示されます。



11 作図補助設定	[DynMode](ダイナミック入力)
₩	⁺▃ ∟ ♂ ▾ ∠ 鬥 ▾ ☴ 💹 ⁺╸
	[ダイナミック入力]
コマンド	[ツール]-> [1F区相切設定] DynMode

## 🚹 [寸法の入力]が OFF のとき

①ステータスバーの[ダイナミック入力]から[作図補助設定]の[ダイナミック]タブを表示させます。 ② [設定]ボタンを押して、[ポインタの入力設定]を開きます。



#### ③ [極座標形式] と [デカルト座標形式]

左下図が [極座標形式]、右下図が [デカルト座標形式]です。

[極座標形式]は[直線距離 < 角度]、[デカルト座標形式]は[Xの距離、Yの距離]で表示されます。



④ [相対座標] と [絶対座標]

右上図が [相対座標]、右下図が [絶対座標]で入力した結果です。

⑤原点 (P1) から P2 まで線分を作図し、「相対座標」で [100,0] と 入力した結果が、上図の P3-1 です。

相対座標での入力は、最後の点 (座標)からの距離になります。

⑥原点 (P1) から P2 まで線分を作図し、[絶対座標]で[100,0]と 入力した結果が、下図の P3-2 です。 絶対座標での入力は、原点(0,0)からの距離になります。



## [寸法の入力]が ON のとき



①[一度に表示される寸法入力フィールドは1つのみ] グリップ編集を使用してオブジェクトをストレッチして いるときに、長さ変更の寸法入力ツールチップのみが 表示されます。



②[一度に表示される寸法入力フィールドは2つ] グリップ編集を使用してオブジェクトをストレッチして いるときに、長さ変更と角度の寸法入力ツールチップが 表示されます。



#### ③ [次の寸法入力フィールドを同時に表示]

グリップ編集を使用してオブジェクトをストレッチしているときに、次に示すオプションがオンに なっている寸法入力ツールチップが表示されます。



	次の寸法入力フィールドを同時に表示
寸法の結果	グリップを移動したときに更新された <mark>長さ寸法</mark> のツールチップを表示します。
長さの変更	グリップを移動したときに行われた <mark>長さの変更</mark> を表示します。
絶対角度	グリップを移動するときに更新された <mark>角度寸法</mark> のツールチップを表示します。
角度の変更	グリップを移動したときに行われた <mark>角度の変更</mark> を表示します。
円弧の半径	グリップを移動するときに更新された <mark>円弧の半径</mark> を表示します。

80

各種設

作図補助設定(ダイナミック入力)

作図補助設定(ダイナミック入力)

各種設定

8 外部参照 [Exte	ernalReferences]
	The second s
リボン	[表示]タブ->[パレット]パネル->[外部参照パレット]
プルダウンメニュー	[ツール]->[パレット]->[外部参照]
コマンド	ExternalReferences

#### 1 参照パネルを表示する

①[パレット]パネル ->[外部参照パレット]を選択します。



<ol> <li>[図面をアタッチ]</li> <li>[イメージをアタッチ]</li> <li>[DWF をアタッチ]</li> <li>[DGN をアタッチ]</li> <li>[PDF をアタッチ]</li> </ol>	参照データとして挿入するファイルの種類を選択します。
2参照名	アタッチしたファイル名が表示されます。
③状態	アタッチの状態が表示されます。(アタッチ、ロード等の情報)
④サイズ	アタッチしたファイルの大きさを表示します。
5種類	[アタッチ]または[オーバーレイ]の情報。
⑥日付	アタッチしたファイルが作成された日付。
⑦見つかった	参照図面を読み込んだフォルダを記述しています。
<ul><li>⑧保存パス</li></ul>	この図面に記録されたフォルダを記述しています。

## 2 参照図面をアタッチする

① [ アタッチ ] する種類を選択します。



1名前	アタッチする参照図面を指定します。
2パスの種類	絶対パスか相対パスかを指定します。パスが違うと表示されません。
③参照の種類	[アタッチ]または[オーバーレイ]を選びます。
④尺度	尺度を指定します。指定しないときは等倍の大きさで挿入されます。
5挿入位置	挿入位置を指定します。指定しないときは原点 (0,0)の位置に挿入されます。
6回転	回転角度を指定します。指定しないときは0度の方向で挿入されます。

②現在の図面内に外部の図面ファイルが<参照図>として挿入されました。

コマンドラインの<ロードされました>の文字で確認できます。



③アタッチされた図面は薄い色で表示されます。

[アタッチ]は保存時に外部図形も保存されますが、その図面の一部になったわけではありません。 また、[オーバーレイ]は文字情報 < 図面名とパス情報 > だけが保存されます。



ホーム 挿入 注釈	_パラメトリック 表示 管理 出力 A360 1/1ッチ)	均作成 🛛 -			
💽 🔍 選択		▲ 👿 パターン 🗸 🥏 • ハッチング透過性 0		🚺 🖌 👿	×
点をクリック		↓ SyLayer → 角度 0	原点	自動調整異尺度対応プロパティ	
「「「二」」 (1993)			設定		を閉じる
境界 ▼	バターン	プロパティ 🗸	原点 🗸	オプション 👻	閉じる
1	2	3	4	5	6

	[ハッチング作成]リボンタブ							
1境界	ハッチングは定義した境界に基づいて作成されます。							
2パターン	ユーザーが定義したハッチング パターンを指定することができます。							
③プロパティ	ハッチングの間隔には単位がありません。尺度で間隔を調整します。							
<ul> <li>④原点</li> </ul>	ハッチングが始まる起点を変更できます。初期値は図面の原点です。							
⑤オプション	[自動調整]や[異尺度対応]を適用するかどうかを選択します。							
6閉じる	ハッチング リボンタブを閉じます。							

オプション⑤のダイアログ ボックスランチャー (赤丸)を指示すると、従来のハッチング ダイアログが 表示されます。



## 1 ハッチングパターンの選択

ハッチングパターンの一覧表示には2通りあります。

①[パターン]パネルのランチャーを表示する。(図1)

② [ プロパティ ] や [ クイック プロパティ ] の [ ハッチング リスト ] を表示する。(図 2)



## 2 ハッチングパターンの作成

①[作成]パネル->[ハッチング]を選択します。
 ②[ハッチング作成]リボンタブが表示されます。
 ③[パターン]からハッチングパターンを選びます。(例:ANS31)
 ④[プロパティ]から[角度]、[尺度]、その他の指定をします。
 ⑤マウスでハッチングの領域内でクリックします。(図1のP1)
 ⑥右ボタンで確定すると、ハッチングが作成されます。(図2)



作成機

修正機能

13 配列複写編集	3 配列複写編集 [ArrayEdit]											
<ul> <li> ◆ 移動 </li> <li> ● 復写 </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  </li> <li> ↓  ↓  ↓  ↓  ↓  ↓  ↓ ↓  ↓ ↓ ↓  ↓ ↓  ↓ ↓ ↓ ↓ ↓  ↓</li></ul>	)回転 -/ トリム ・ <u>/</u> 鏡像 (A フィレット ・ (A) 尺度変更 📲 配列複写 ・ (A) 修正(マーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー											
リボン	[ホーム]タブ ->[修正]パネル ->[配列複写編集]											
プルダウンメニュー	[修正]->[配列複写]											
コマンド	ArrayEdit											

## 1 [プロパティ]を変更する

配列複写オブジェクトは、全体の個数や間隔をプロパティとして保持しています。 このプロパティは[配列複写]リボンタブやグリップを使って編集できます。

#### [リボンタブで編集する]

①元の配列複写オブジェクト (図1)を選択します。

② [配列複写] リボンタブの [列] を <4>、 [間隔] を <700>、 [行] の [間隔] を <700> に変更します。
 ③ (図 2) のように、配列複写オブジェクトが変更されました。



#### [グリップで編集する]

①グリップを上方向、右方向へ動かしてリアルタイムに変更できます。(図3)
 ②右ボタンのショートカットからも変更できます。(図4)



## 2 配列内の[各項目のオブジェクト]を変更する

配列複写オブジェクトの各項目だけを編集することができます。

Ctrl キーを押しながら編集したいオブジェクトを選択します。(図 1)
 ②右ボタンを押して、ショートカットを表示します。(図 2)



③ (図3)はショートカットから [削除]を選択した図です。

(図4)は[回転]を選択した図です。





④変更した後でも、元の状態に戻すことができます。
 [オプション]から[配列複写をリセット]を選びます。
 ⑤削除された図形が元の状態に戻ります。





## 1 [ 直列寸法 ( 一本づつ選択する )]

[寸法記入]パネル->[クイック]を選択します。
①<u>寸法を記入するジオメトリを選択:</u> 線分 S1 を選択します。
②<u>寸法を記入するジオメトリを選択:</u> 線分 S2 を選択します。
③<u>寸法を記入するジオメトリを選択:</u>
④<u>寸法線の位置を指定:</u> マウスで寸法を配置する位置を指定(P1) します。



- 2 [直列寸法(まとめて選択する)]
   [寸法記入]パネル->[クイック]を選択します。
   ①<u>寸法を記入するジオメトリを選択:</u>
   右図のようにマウスでP1 P2と図形を クロス選択します。
   ②寸法を記入するジオメトリを選択:
- ③<u>寸法線の位置を指定:</u>
- マウスで寸法を配置する位置を指定 (P1) します。







## 4 [並列寸法(まとめて選択する)]

 [寸法記入] パネル -> [クイック]を選択します。
 ①<u>寸法を記入するジオメトリを選択:</u>
 右図のようにマウスで P1 - P2 と図形を クロス選択します。

②<u>寸法を記入するジオメトリを選択:</u>
 ④
 ④
 石ボタンを押して、ショートカットから

#### [並列記入 (B)] を選びます。 ④寸法線の位置を指定:

<u>マウスで寸法を配置する位置を指定 (P1)</u> します。



## 5 [半径/直径]

 [寸法記入]パネル->[クイック]を選択します。
 ①<u>寸法を記入するジオメトリを選択:</u> 右図のようにマウスでP1 - P2 と図形を クロス選択します。
 ②<u>寸法を記入するジオメトリを選択:</u>
 ④右ボタンを押して、ショートカットから
 [半径 (R)]または[直径 (D)]を選びます。

④<u>寸法線の位置を指定:</u>

マウスで寸法を配置する位置を指定します。





272

#### 第1部8章【外部ファイル】



## 1 図面を PDF として保存する

右の図面を PDF として保存します。
 画層やリンクの情報も保存できます。



② [DWF/PDF に書き出し]パネル -> [書き出し]-> [PDF] を選択します。
 ③ [PDF に名前を付けて保存]ダイアログが表示されます。
 ④ [ファイル名]に名前を入力して、[OK] ボタンを押します。
 ⑤ [オプション]ボタンを押して、PDF の詳細を指定できます。



	PDF 書き出しオプションの [ データ ]
画層情報を含める	PDF ファイルの表示または印刷時に、画層を表示 / 非表示にできるようにします。
ハイパーリンクを含める	図面ファイルのハイパーリンクを PDF ハイパーリンクに変換します
フォントの取り扱い	PDF ファイルに TrueType フォントを埋め込みます。

#### PDF 読み込み [PDFimport] $\Rightarrow$ 🖏 SHX 文字認識 PDF PDF. 50500 A 50-00 DGN 読み込み PDF 文字を 読み込み 結合 読み込み 読み込み [挿入]タブ ->[読み込み]パネル ->[PDF 読み込み] リボン プルダウンメニュー ありません コマンド PDFimport

## PDF を図面ファイルとして読み込む (PDF を DWG に変換する)

① [ 読み込み ] パネル -> [PDF 読み込み ] を選択します。

② [ファイルを選択] ダイアログから、読み込む PDF を選択します。(下左図)

③ [PDF を読み込む ] ダイアログで [ 位置 ][ 読み込む PDF データ ][ 画質 ][ オプション ] を指定して

[OK] ボタンを押します。(下右図)





④選択した PDF が図面内に挿入されます。[機械 .pdf] が [Drawing1.dwg] 内に挿入されました。

× コマンド: pdfimport PDF アンダーレイを選択 または [ファイル(F)] <ファイル>: file PDF アンダール(1)のページ -1976423752 を読み込んでいまず... コマンド:

⑤ [ 画層プロパティ管理 ] で確認すると、[PDF\_0] の ように画層名の前に [PDF\_] が付加されています。

#### (注) (ア) の正面を使用]で読み込むと、 (PDFの画層を使用]で読み込むと、 図面の画層名が引き継がれます。

× D		🖴 🌮 🏵	<b>G S</b>					
						線種		
	1	0		đ	white	Continuous	—— 既定	0
		PDF_0	1	<b>.</b>	white	Continuous	—— 既定	
		PDF_CEN			📕 red		—— 既定	
		PDF_DIM		-	🔲 mag		既定	
		PDF_HAT			🔲 green		—— 既定	
		PDF 文字		<b>.</b>	maq		既定	



注)	
■層 ○ PDFの画層を使用(U)	[オブジェクトの画層を作成]で読み込むと、
● オブジェクトの画層を作成(O)	ジナイトリのタイプブレに分けられます
○ 現在の画層(C)	ノオメドリのタイノCCに力のられより。

現在	の画 (面	屠:0 编 <i>备</i> 备 备	9	×							
»								線種		透過性	
	1	0	Т			ď	white	Continuous		0	仓_7
				1	÷.	<b>.</b>	🔲 109,	Continuous	既定	0	色_7
		PDF_ソリッド塗り漬					🔲 cyan		既定		
		PDF_文字					white		—— 既定		

PDF 読み込み

外部



前ページでは、Boltの長さを[増分(左下図)]と[リスト(右下図)]で変更しました。 もう一つ、[ルックアップ]という方法で長さを変更することができます。 [ルックアップ]は一覧表を表示して、その中の数値を選択すれば、Boltの長さが変更します。



#### 1 [ルックアップ]を使用して、数値を選んでストレッチする ①[パラメータ]パネルの[ルックアップ]を配置します。

#### ②パラメータの位置を指定:P1 あたりを指定します。

[ルックアップ]パラメータはブロック (Bolt) の近くに配置します。







③グリップの数は <1> になっていますから、変更はありません。

④下図のように、ブロック (Bolt) の近くに [ルックアップ] パラメータが配置されました。 この位置に一覧表が表示されます。





⑤次にこの[ルックアップ]パラメータに[ルックアップ]アクションを与えます。 [アクション]パネルの[ルックアップ]を選択します。



⑥パラメータを選択:パラメータ[ルックアップ1]を選択します。

------

#### ⑦ [プロパティルックアップテーブル]が表示されます。このテーブルに数値を入力します。





## 2 1/100 用と 1/50 用の画層を作成する

① 1/100 用と 1/50 用の画層を作成します。

[画層]パネルの[画層プロパティ管理]を選び、2つの画層を新たに作成します。

現在	現在の画層: 0 次の画層を検索 🔍													X				
		i	Ð,	Ø.												C	æ	*
	状.	. 名前			フリ	۵		線種	線の太さ	透過性	印刷ス				VPの色	VPの線種	^	
	-	タイトル		-	- 🔆 -	-	254	CONTIN	—— 既定			-	5	5	254	CONTIN.		
	-	ハッチング		2	- 🔆 -	<b>-</b>	wh	CONTIN	—— 既定			÷		5	wh	CONTIN.		
	_	レイアウト		•	- <u>()</u>	<b>1</b>	9	CONTIN	—— 既定			- 0	5	5	9	CONTIN.		
	Ø	S100		9		ď	🔲 blue	CONTIN	—— 既定			50		5	🔲 blue	CONTIN.		
		S50		9		6	🔣 gr	CONTIN				6	Р.	<b>P</b> 0	gr	CONTIN.		
	-	家具		1		-	wh	CONTIN	—— 既定			÷	P_	P	wh	CONTIN.	••	
	_	階段		•	- <del>(</del>	<b>_</b>	231	CONTIN	—— 既定			÷	-	5	231	CONTIN.		
	-	建具		<b>?</b>	×.	•	🔲 gr	CONTIN	—— 既定			-	<b>F</b>		<b>g</b> r	CONTIN.		
	-	寸法		1			🔲 ma	CONTIN	—— 既定			÷	- <b>F</b>	-	🔲 ma	CONTIN.		i
	-	設備		2		<b>.</b>	🗾 cyan	CONTIN	—— 既定			-	P_	<b>P</b>	🔄 cyan	CONTIN.		Į.
	-	窓		1			blue blue	CONTIN	—— 既定			-	-	-	blue	CONTIN.	• 🗸	Ļ
	<													598.	101	2		B
	] #٨	(7(ハ)・素ラ	≓≠h	7113	画屋 2		「居の総当	t 2/4 (田										

1/100 用の画層と1/50 用の画層を作成するのは、1/100 の寸法記入はS100 の画層で、
1/50 の寸法記入はS50 の画層で作成するためです。
1 つのレイアウト画面に両方の寸法が表示されたときは、片方の画層をオフにする ことによって重なり合うことを防ぐことができます。

## 1/100の尺度に適した寸法スタイルと画層の設定

#### 1) 1/100 用の図面に寸法スタイルと画層を割り当てる

①左のレイアウトの寸法を選択して[プロパティ]で確認してみると、[画層]は < 寸法 >、 [寸法スタイルは <STANDARD]になっています。

これは、レイアウトは <1:100> が1つの場合の[画層]と[寸法スタイル]です。



②左のレイアウトの寸法を全部選択して[プロパティ]で、[寸法スタイル]を <S100>、
 [画層]を <S100> に変更します。



## 寸法を一度に選択するには、[プロパティ]ダイアログの 右上にある[クイック選択]を使います。 [オブジェクトタイプ]として[長さ寸法]、[演算子]として [すべて選択]を選び、OK ボタンを押します。

Point!



Point!

図0=



## 1 [テンプレートファイル]の選択

① [AutoCAD LT] が提供するテンプレートを使う場合。

テンプレートにはインチ系の [acadlt][acadlt-Named Plot Styles] とミリ系の [acadltiso][acadltISO-Named Plot Styles] の2種類があります。

[acadiltiso] は < 色従属印刷スタイル >、[acadltISO-Named Plot Styles] は < 名前の付いた印刷スタイル >

が最初から設定されています。

- ・画層 <0>のみ。 ・寸法スタイル <iso-25><Standard>
- ・文字スタイル <Standard>。
- ・線種 <Continuous 実線 >
- ・その他の設定も初期値のみ

→これをもとに自社用のテンプレートを作成して、作図を開始します。

②[自社作成]のテンプレートを使う場合。

→すぐに作図を開始できます。

- ③[既図面を利用]する場合。
- ・[名前を付けて保存]を選び、別名で保存します。
- ・図面内のオブジェクトをすべて削除します。
- ・[アプリケーションメニュー]->[図面ユーティリティ]->[名前削除]で不必要なオブジェクトを削除 します。
- →既存のオブジェクト(図形)を削除してから、作図を開始します。

## 🕗 AutoCAD LT のテンプレートファイル <acadItiso.dwt><acadItISO-Named Plot Styles.dwt>

①日本仕様のテンプレートファイルは2種類ありますが、印刷スタイルが違うだけです。

- ② 「色従属印刷スタイル」は使用する色が <225 種類 > に限られ、画層やオブジェクトごとに変更でき ません。
- ③ [名前の付いた印刷スタイル]は使用する色が <225 種類 > 以上使用できます。 また、画層やオブジェクトごとに割り当てることができます。

Į	頁目	acadltiso.dwt	acadltISO-Named Plot Styles.dwt			
印刷スタイル		色従属印刷スタイル	名前の付いた印刷スタイル			
文字スタイル	フォント名	TT Arial	TT Arial			
	フォントスタイル	標準	標準			
寸法スタイル		<iso-25><standard></standard></iso-25>	<iso-25><standard></standard></iso-25>			
画層		<0>	<0>			
線種		Continuous 実線	Continuous 実線			

#### 共通の文字スタイル ▲ ☆☆ファ////₩₩





現在の文字スタイル

🚯 <acadItiso.dwt> と <acadItISO-Named Plot Styles.dwt> の印刷スタイルの違い

#### (1) <acadltiso.dwt>の[印刷スタイル]は<色従属印刷スタイル>です。 画面の色で印刷時の色が決まります。画層やオブジェクトに割り当てることはできません。 下右図の[印刷スタイル]は < Color\_7>の文字は見えますが選択できません。



② <acadltISO-Named Plot Styles.dwt>の[印刷スタイル]は < 名前の付いた印刷スタイル > です。 画層やオブジェクトに個別に割り当てることができます。

下右図の [印刷スタイル]は初期値は <Normal> となっていますが、他のスタイルに変更でき ます。







#### ② [画層プロパティ管理]から [通り芯]の表示を <ON> に切り替えます。

現在	の画	層: 寸法									次の画層	を検索	<. ×
		4 9 9 9										S X	٤ 🐹
	状	名前	▲ 表示	フリーズ	ロック		線種	線の太さ	透過性	印刷スタイル	印刷	新しいVPで	^
	-	階段	•	÷.	E.	231	CONTINU	—— 既定			÷	5	
	_	建具	•	÷.	<b>.</b>	🔲 gre	CONTINU	—— 既定			=	5	
		寸法	Ŷ			🔲 blue	CONTINU	—— 既定			-	2	
	-	設備	÷.	÷.	<b>.</b>	📃 cyan	CONTINU	—— 既定			÷	2	
	-		<b>9</b>	÷.	<b></b>	🔲 blue	CONTINU	—— 既定			÷	5	
	_	柱	•	- <u>`</u>	<b>F</b>	white	CONTINU	—— 既定	0		÷	2	
		通り芯	9		б	📕 red	CENTER2	—— 號定			e	P.	CEH.
	-	部屋名	- 1	- <del></del>		ma	CONTINU	—— 既定			-	5	Į.
	-	文字	Ŷ	÷.	<b>E</b>	🔲 blue	CONTINU	—— 既定			÷	5	Ē
	-	壁	Ŷ	- <u>`</u>	<b>_</b>	white	CONTINU	—— 既定			=	<b>F</b> _	v 👌
	<								1			>	E E
	1												
	すべ	て(A):表示されてい	る画層 24 個	、画層の総	数 24 個								Ð

③ 「寸法記入」パネル-> 「長さ寸法記入」で、上側の寸法を記入していきます。

1本目の寸法補助線の起点を指定 または < オブ ジェクトを選択 >: マウスで左端の通り芯の端点 (P1) を取ります。 (Oスナップの端点モードにしておきます。) 2本目の寸法補助線の起点を指定: マウスで二番目の通り芯の端点 (P2) を取ります。



#### ④寸法線の位置を指定 または

[マルチテキスト (M)/ 寸法値 (T)/ 寸法値角度 (A)/ 水平(H)/垂直(V)/回転(R)]: 寸法線の出す位置をマウスで指示します。(P3) 寸法値 = 3640: 🖊



入していきます。 2本目の寸法補助線の起点を指定または「元に戻す (U)/ 選択 (S)] < 選択 >: マウスで次の通り芯の端点 (P4) を指示します。 2本目の寸法補助線の起点を指定または「元に戻す <u>(U)/ 選択 (S)] < 選択 >:</u> 同様にして、右端まで順番に通り芯を選択してい

⑤続けて [直列寸法記入] コマンドで直列寸法を記



#### ⑥下図のように寸法が作図されます。

きます。



452



③続けて[寸法記入]パネル->[直列寸法記入]を使用します。
 <u>2本目の寸法補助線の起点を指定または[元に戻す(U)/選択(S)]<選択>:</u>
 マウスでハッチングの下側(P4)を取ります。

2本目の寸法補助線の起点を指定または[元に戻す
 (U)/選択(S)]<選択>:

自動的に直列寸法が記入されます。



④続けて[引出線]->[マルチ引出線記入]を使用します。
 引出線の矢印の位置を指定:

[O スナップ]の < 近接点 > を使い円周上 (P1) を取ります。 文字の入力画面が表示されますから、キーボードから <φ60> と入力します。

⑤ OK ボタンを押して終了します。



<φ>は <%%C> と入力すると、φ に変換されます。





ます。